

「こんにちは」から始まる国際交流

KIFA かにえ国際交流友の会
Kanie International Friendship Association

会報 No.6 (April 1999)



5月10日 蟹江町野外活動センターでのバーベキューパーティ

差別のない暖かい交流を

地域からの国際交流

会長 棚橋 美知子



昨年は長年KIFAにいつも顔を出してくれていた多くの外国人が帰国していきました。私たちには淋しいことですが、不況下の日本に見切りをつけての帰国は賢明なのかもしれません。祖国でのしあわせを心から祈っています。

最近、遠くから日本語を勉強に来ている人が「英語圏尊重、白人偏重の国際交流会が多い中でKIFAだけは私たちにあたたかい」と言ってくれました。続けてきてよかったと思いました。厳しい時代だからこそ、皆で集まる時だけでも差別のない暖かい交流を心がけたいものだと思います。今年もよろしくお願いします。

蟹江町長 佐藤 篤 松



かにえ国際交流友の会の皆さまには、様々な国際交流事業を推進していただき、心より感謝と敬意を表します。

さて、蟹江町においても今では、外国人の方と隣り合わせになることはごく日常のことです。この様な地域社会の中でこそ、同じ地域住民同士としての交流から、国際社会に柔軟に対応できる力が養えます。また、異文化との交流によって国際認識と理解を促し、地域の産業や経済を刺激し、それが地域を活性化する契機となります。こうして異文化交流を進めることにより、地域が国際社会に開かれ、国際交流自体が幅広く層の厚いものとなることを望みます。

最後になりましたが、かにえ国際交流友の会の更なる発展を期待し、ますますのご発展と会員皆さまのご健勝をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。

あるドイツ人夫婦の引退後の生活

—ハンブルグのヨナートさん夫婦の家にホームステイして—

藤田 美保

昨年8月末、学会参加のためイタリアへ行きました。パリ経由で、フィレンツェへ。しかし最終のフィレンツェ空港では入国審査が全く無く、乗り換えだけのはずのパリドゴール空港でパスポートのチェックがあって、「そうだ！ハンブルグ行きの時も同様だった」と気がつきました。

7月初めのK I F Aのハンブルグ訪問の時は、アムステルダムで乗り換えでパスポートのチェックを受け、最終地ハンブルグでのチェックは無しでした。EU圏外からの外国人は、最初のEU国で入国審査を受けるのです。2002年からは通貨がユーロに統一される予定ですが、入国審査ではEUはすでに一つの国になっていたのです。

私がハンブルグで滞在したのは60代前半の、ヨニとイルゼのヨナート夫妻の家でした。イルゼは以前、私達の家にもホームステイしたことがあって旧知でした。彼らの家はハンブルグ中央駅から電車の終点でバスに乗り換え、合わせて約40分かかる郊外の住宅地にあります。



ヨナート夫妻の自宅

敷地はそれなりに広いのですが家はこじんまりとしたものです。しかしケラーと呼ばれる地下室と、屋根裏部屋があり外見の割に以外と広いのです。ここで私はかつては娘さんの部屋だ

ったという屋根裏部屋に泊めていただきました。息子さんと娘さんがそれぞれ一人いますが、すでに独立していて、夫婦だけの退職後の生活です。イルゼは日系企業に勤めていたせいで英語は堪能、日本語も少しできます。ヨニは日本語はもちろん、英語もできません。だからヨニとは、私の英語混じりのドイツ語でコミュニケーションしていました。彼の趣味は古い時代の自動車の復刻です。スクラップ状の部品から完動品を作り上げるわけで、これは気の遠くなるような仕事です。ほとんど形のない車体の屑に、いろんな所から苦労して手にいれた部品を

組み合わせてオリジナルと全く同じ形状に作り上げていくのですから。自宅には旋盤類の工作機械もあって、どうしても手に入らない小部品類は自分で作ってしまいます。



1931年型フォードAと著者

ヨニは5年を費やして1931年製フォードA、2年半かけて1930年製BMWの2台の車を完成させました。さらにすごいのは、ちゃんと登録されてナンバープレートが付き、日常的に使われていることです。実際、どちらにも気軽に乗せてもらいました。博物館にあるような車で町中を走っていると、歩行者や車の運転者などが手を振って挨拶してくれたりして感激ものでした。現在は、1928年のオースチン7の復刻に取りかかっています。2年以内に完成させたいとがんばっています。

この趣味に注ぐ情熱とお金はすごいもので、アマチュアの域を越えているように見えます。日本だとこういうのは夫だけの道楽で、家族から浮いてしまうところがあります。しかし奥さんのイルゼは協力的で、あちこちのオールドカーのラリー（同好者の展示会）には一緒に出かけ共に楽しんでいるようです。

一方、イルゼは植物に強い関心があります。路傍の草木類にも詳しく、たとえば線路際によく見かけるある大きな草がコーカサスからの帰化植物で、この辺りに同化して広まっていると、電車に乗っている時に教えてくれました。彼女は様々なところで植物を観察したり、その関連物を収集することが好きですから、オールドカーラリーへの旅行は彼女に

とって良い機会なのです。彼らはこの冬、一ヶ月以上かけてオーストラリアを旅行し、世界で最大級のオールドカーラリーに参加しました。また、ここの固有な植物相をたくさん観察できたりして、非常に楽しい旅行でしたと最近の手紙に書いてありました。

「欧米の人々は、趣味で残りの人生を楽しむために、引退を心待ちにしている」とよく言われますが、私は彼らにその典型例を見たと思いました。

普通の人々の生活は日本でそのそれに比べてつましいものです。私のような客がいても特別豪華に料理を作ることはなく、多分ほとんど普段通りであったと思います。また、電気、水などはもうこれ以上節約できないくらいの使い方、日常生活に不便さを感じずの程です。しかし、対照的に趣味・外国旅行などの楽しみにはかなりお金を割いているように見えます。これらは私達の目には非常にアンバランスに映るのですが、この人たちの一つの流儀あるいは価値観なのでしょう。

お金を老後のケアのためあるいは子供達のために残すという、今なお普遍的な日本的思考に対して、ドイツでは自分たちのお金は余生を楽しむために使



1930年型BMWとヨナート夫妻（左は谷中さん）

うという発想があり、かつ社会全体として受容されていることが背景にあると推測しますがいかがでしょうか。

もし次に機会があれば、もう少し長くホームステイし、一般家庭の生活を通してドイツの社会ならびに種々の側面を眺めてみたいものです。

かにえ国際交流友の会 講演・ビデオ上映会

1999年1月31日(日)
中央公民館分館3階会議室にて

「ベラルーシという国、ベラルーシの生活について」

講師：ヴィタリー・シュペフト



ベラルーシ共和国

地図で分かるように、東西でロシアとポーランドに接する東ヨーロッパの国。長らくソビエト連邦の一員であったが、ソ連の解体と共に1991年正式な独立国となった。

国土の面積は20万7600 km²で日本の約半分、首都はミンスクである。人口は1038万人で、その内ベラルーシ人が約78%を占める。公用語はベラルーシ語とロシア語。

ベラルーシのヴィソコエ（ポーランド国境から5kmの町）出身で、現在23歳。ベラルーシの市民権を持つが、国籍はドイツ。ミンスク国立言語大学からユタ州立大学（USA）に留学し、卒業後1年間ベラルーシで働いた後来日し、港区南陽町に在住。



シュペフトさんの話はベラルーシの歴史から始まって、政治、社会、地理、文化、そして人々の生活等と、実に多彩でした。

「ベラルーシ（白ロシア）」の名は、ロシア人がこの国の人を「white head」と呼んだことから来ていること。独立後もロシアへの回帰を望む勢力もいて民主体制が不安定なこと。この国は最も高い所でも海拔345mしかなく国土は非常に平坦で、10,800もの湖があること。家にお客を迎える時、白い布にパンと塩を載せたものを差し出して歓迎する習慣があること。秋には家族、友人と森に行き、たくさん生える茸を取ってバーベキューで楽しむこと。

日本では未だよく知られていないこの国について様々な知見を得ることができて、大変有意義な講演でした。シュペフトさん、それに通訳して下さった奥様、どうもありがとうございました。(MF)

行事の足あと

— 友好の **輪** が広がりました —



▲ 4月12日 総会
ブラジル料理を準備中のジレウさん
6ヶ国の料理が並び、127名が舌鼓をうちました。



▲ 5月10日 蟹江町野外活動センターにてバーベキュー
五月晴れの下、鯉のつかみ取りも楽しめました。



▲ 8月8・9日 盆踊り大会
ブラジル風甲冑焼きは即完売。
チョコバナナも大人気！毎度ありいー!!
売上げ、110,045円をバプアニューギニア
の津波と中国の洪水被災地に送らせてい
ただきました。



▲ 6月28日 若松部屋すもう教室
ひーがし〜バングラディ〜シュー
に〜し〜アメリカ〜



▲ 10月3日 ルイスさん、ユ一夫妻、水林さんの送別会
さようなら お元気で、また会いましょう。



▲ 10月10日 町民祭りのフリーマーケットに参加
ちょっと安くしすぎ? 売上金、62,216円
ご協力ありがとうございました。



▲ 10月6日～12日 蟹江郵便局にて
KIFAの活動を紹介する写真展



▲ 11月14日 日本語しゃべろう会の研修会
坂本正先生 (南山大学講師)
楽しく学びました。



▲ 12月13日 クリスマスパーティ
生バンドによるサンバのリズムに合わせて、Let's Dance



▲ 1月31日 ヴィタリー・シュベフトさんの講演会
「ベラルーシという国、ベラルーシの生活について」

蟹江に住んだことは幸運

ジョン 山本



私は日本に住んで8年余りたち、そのうち7年は蟹江に住んでいます。よく日本人やいろいろな国の人から「どこから来たの」「どうしてここに住むことになったの」と聞かれます。ハワイから来たと答えると、決まって「ハワイのほうがいいんじゃない？」と言われます。たしかにハワイはすばらしく、美しいところで私は大好きです。しかし同じように日本も美しくすばらしいところです。私が日本で会った人はすべて日本は小さいといひます。カナダやアメリカ本土の人たちから見れば日本は小さい国だと思うでしょうが、ハワイと比較したら日本は大きな国です。私の故郷のオアフでは島の反対側に行くのに車で1時間足らずです。友達とバーベキューをするために、よく島の反対側に出かけました。長時間の運転に文句を言ったりしていましたが、日本では1時間くら

いの運転は日常茶飯事です。そのため里帰りをするとどこもかも近くに感じます。

また、なぜ蟹江を選んだのかというと、日本に来た時、私は日本に対するあるイメージを持っていて、アパートを探していました。休みの日を利用して、全ての地下鉄の駅で降り、その辺を歩き回りました。その時は三重の親戚の家から名古屋に通っていたので、ある日蟹江の駅に降りてみました。駅前のロータリー、小さな商店街。ここが求めていた場所だとすぐにわかり、アパートが見つかるまでの1年間、何度も足を運びました。名古屋場所の時には二つの相撲部屋ができ、温泉もあり名古屋までたったの10分。活気ある国際交流の会もあり、住んでいる人々も良い人達ばかりです。

この7年間に蟹江はずいぶん変わりました。水田がなくなり新しいレストラン、マンションがどんどん建てられています。それでもこのすばらしい町でたくさんのすばらしい人と出会うことができ、とても幸運だと思っています。蟹江に住んだことは正しい選択だったと思うし、もし蟹江に住んでいなかったらとっくの昔に帰国していて、今ここにいなかったと信じています。

日本の表と裏

羅 国明

ある日、私は近鉄で友だちの家に行きました。友だちの家に着いたとき手袋を片方落としたことに気づきました。それは彼女からの贈り物でとても大事にしていたものです。友だちは「駅に電話してみたら」と言ってくれました。薄い希望を抱いて駅に電話しました。手袋の色とか落とした時間を話したら熱心に聞いてくれました。駅員は「これから探して後から知らせます」と言われました。同じことが中国でもありましたが、出てきませんでした。でも思ったより早く「ありました」と電話がかかってきました。

日本は世界のなかでも礼儀正しい国だと言われています。サービス業に携わる人はみんな礼儀正しくサービスも行き届いています。このことは外国人の私に強い印象を与えました。

2年間日本で働いてきて、日本人と付き合いときのマナーに戸惑っていました。日本語を勉強したので苗字には「さん」とか「くん」をつけて呼ぶことは知っていました。しかし、会社ではみんな私のことを「ラ」と呼んで、しかも常に「おい」と呼んで

いました。仕事仲間なのでくれた言い方をするのだらうと、あまり気に留めませんでした。でも私が誰かを「おい」と呼ぶと、すぐ怒って「なに、お前は俺をおいと呼ぶのか」と叱られました。やはり丁寧な言葉を使ったほうがいいなと思いました。

サービス業の人も工場で働いている人も同じ日本人なのに、私にはまったく違うような気がします。どちらが表どちらが裏、誰か教えてください。



1月31日 羅さんのお別れパーティ(右端が筆者)

K I F A と私 — 長野より —

水林 弘美

K I F Aの皆様お元気ですか。「日本語しゃべろう会」ではボランティアとして活動させていただき、ありがとうございました。

私の担当していた月曜日クラスは、日本に定住している人がほとんどでした。日本の生活に慣れ、話すことはできるけれど日本語の読み書きがちょっと苦手なママ達。子どもが学校に通うようになり、学校からのお知らせなどを読めるようになりたいという希望があり、月曜日のクラスは使用頻度の高い漢字を学習しました。

日本語の勉強だけでなく、外国人からみた日本人の常識、習慣、文化の違いを話したり生活の悩みを話し合ったりして、打ち解けた雰囲気の中ワイワイ楽しく過ごしました。今でも友だちとして交流が続いています。日本語を教えるなんておこがましいと思っていましたが、教えるよりも教わることが多く、私のほうが学ばせてもらっていたと思います。K I F Aで出会った人たち、K I F Aでの活動が私の

宝となっています。

K I F Aは大きな組織ではないので活動は限られています。地域に根ざしたコンパクトさ、会員ひとりひとりが参加意識を持てる、そういう会はすてきだと思います。今後も横のつながりを持って国際交流を進めてほしいと思います。また長野からも情報を発信しますね。



ミャンマーの上山まりさんと筆者

退職後のボランティア

谷口 和郎

毎日が日曜日、これというスケジュールもなく、退職後3年が過ぎていた。一昨年12月K I F A「日本語しゃべろう会」で外国人に日本語を教える先生をしないかとお誘いを受け、私にできるかなあと心配しつつ、明けて1月、蟹江中学となりの児童館へ出向いた。

ボランティアの先輩達と数名のフィリピン出身のお母さんがいたと思う。日本語をしゃべろうではなく、コミュニケーションはまず耳からというが、すで

に日本語の日常会話は自在で、ひらがな、そして簡単な漢字の読み書きの勉強中だった。とくにひらがなとなると、一字一字の筆圧の強弱、曲がり、はねが不得意で、体をなしていないことに気がついた。一年経った現在でも曲がり、はねを注意しながらボランティア活動をしている。

私と外国人との出会いは、終戦後まもなく、出身の九州の港町門司で駐留米軍が主要なビルを陣取り、



奥さんと「なばなの里」で

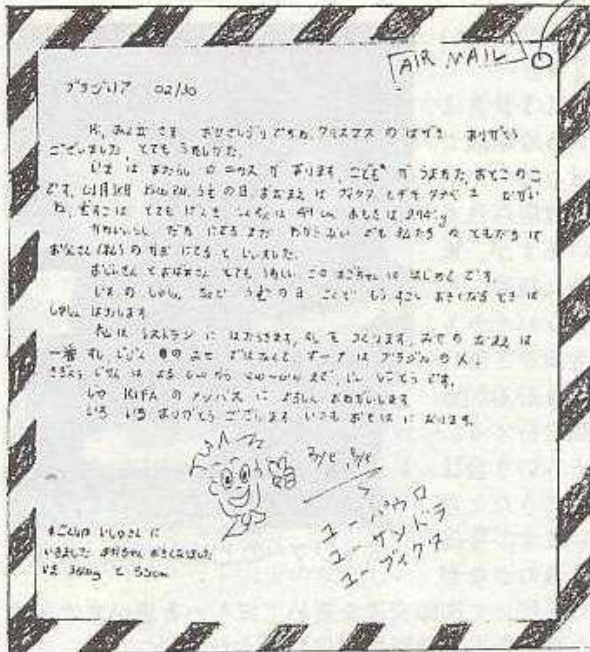
大きな体の兵隊さんが町を闊歩していたという思い出のほか、在職中新幹線の中での元アメリカ軍人との会話や、アメリカ出張中ぐらいのものだった。最近では、家族の一員として外国人の婿さんのいる友人もあり、国際的な交流も、国際結婚等を通じて拡大していることが分かる。

外国出身の方々には、習慣、風土、気候の違いによって、不自由なことが多いと推察できる。ましてや、新聞紙上で母国への送金のご苦勞などをみると、毎

週一回二時間のボランティアだが、ひらがなと簡単な漢字の読み書きのお手伝いを今後もできるだけしたいと思っている。

今年は毛筆（筆ペン）でひらがなを書いてみせてあげよう。

お元気ですか、AMIGOS!



El Año Nuevo 1999, en Perú
Recibe el Año Nuevito en Perú



98-11-15

KIFAの皆さんお元気ですか? こちらペルーは春です。まだ寒く、風も強く、太陽は少ししかみえません。20日の木曜日に近視をレーザー光線で手術します。
ルイス 赤沢

あとがき

今回の会報No 6は、昨年度の“KIFA”の行事に関わって下さった方々に原稿をお願い致しました。お忙しい中、皆様快くお引き受け下さりありがとうございました。

海外や遠方から原稿を送って下さった方もあり、受け取った編集員一同懐かしく思い出話に花を咲かせました。(ひ)

企業会員 (ご協力ありがとうございました。)

(株) 蟹江住宅設備	(株) アイエス	丸信製粉(株)
------------	----------	---------

賛助会員 (ご協力ありがとうございました。)

(株)ニッシンテクノス	もへの寿司	(株)八幡製鋌所	(株)若菜	松岡豊泉閣
(株)フミン加工	蟹江広寿司	(株)東海興業	(有)みづほ園芸	(株)松はま
(有)たちばなや	(株)片桐銘木工業	(有)共同建設	観音寺	高坂英次
月星光博	山本美代子	佛光寺	山田栄子	松屋(株)

99年度 総会のご案内

時:1999年4月18日(日)

午後1時00分

所:蟹江中央公民館分館

●現在の会員数

・個人 129人 ・企業 3社 ・賛助 20人

かにえ国際交流友の会

事務局 蟹江町役場 企画課

〒497-8601 愛知県海部郡蟹江町大字西之森字長三郎2
TEL(05679)5-1111 FAX(05679)5-9188